

提供している医療は、慢性期医療が担当することとなる。これからの慢性期医療の現場では、このような重症患者の治療に応えられるよう、急性期治療機能を持っていなければ対応は困難である。

これからの慢性期病院の主な機能は急性期治療後の患者の受け皿であり、最近では、がんの再発やターミナルケア、認知症や在宅支援についても慢性期医療が担うべきものとする社会的な期待や認識が高まっている。また、本研究結果からもわかるように、在宅療養を快適に長く続けていくためには、病状が悪化した場合には、直ちにかかりつけ医による往診等を受けるべきであるが、診療所の医師による往診のみで完結するものではない。診療所の医師と在宅療養支援病院や後方病院の医師、そしてコメディカルスタッフとの連携によって初めて在宅療養患者や家族にとって満足のゆく在宅療養が継続されるのではないかと考えている。そこで、日本慢性期医療協会では、今後ますます増え続ける在宅療養患者について、「在宅医療認定医講座」「ケアマネジャー講座」「在宅療養家族講座」を開催し、在宅療養患者をささえるチームの育成を目指した講座を開設し、その課題点についても把握した。

まず、「在宅医療認定医講座」は、6日間24単位（計32時間）の講義・ワークショップを行った。参加者は実際に在宅医療に携わっている診療所の医師、そして在宅をバックアップする病院の医師の両方が参加するものとなった。参加者からは非常に好評であり、在宅医療の重要性を感じたといった意見が多く、聴診器一本で診療しなければならない在宅医療における実際の治療法や診断方法など大変参考になったという意見もあった。

「ケアマネジャー講座」では、福祉系のケアマネジャーが増加している中、医療的な知識を身につけ、適切な医療ケアをケアプランに盛り込んでもらいたいという趣旨からプログラムを組んだものである。参加したケアマネジャーからは、医療知識を持つことにより、新たな視点で利用者のためのケアプランを立てることが出来る、ケアマネジャーの資質向上の必要性を痛感した等、現状のままではいけないという危機意識を持っていたのではないかとと思われる。「在宅療養家族講座」は、実際にご家族を在宅で介護しておられる方、あるいはご家族が退院を予定している方などが参加され、その事情は様々であったが、参加者からは、人形や医療機器を使った実技が好評であり、このような会を開催したことに感謝しているという意見も多くいただいた。

2025年に向けて国は在宅医療を推し進めているにもかかわらず、在宅医療に対する質の担

保的なことに触れたことがない。在宅医療推進のための取り組みはスタート地点に立ったばかりであり、日本慢性期医療協会では、これらの講座を通してスタッフ教育を含めた慢性期医療の質の向上を目指していきたいと考えている。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 武久洋三：著書 よい慢性期病院を選ぼう メディス出版 2012.4
- 2) 武久洋三：日本慢性期医療協会からの問題提起 日本慢性期医療協会機関誌 JMC No. 80. vol.20 No.1 3-10 2012.4
- 3) 武久洋三：特集 看護職の賃金・給与体系はどうあるべきか【事例集】 看護職の賃金・給与体系「病院」第71巻第5号 375-387 2012.5
- 4) 武久洋三：良質な慢性期医療がなければ日本の医療は成り立たない 日本慢性期医療協会機関誌 JMC No.81. vol.20 No.2 2-6 2012.6
- 5) 武久洋三：銷夏随筆 これからの医療機能分化は 日本病院会雑誌 平成24年 7月号 vol.59 No.7 80-81 2012.7
- 6) 武久洋三：特集 社会保障制度改革の必要性—社会保険料と税の一体的な見直し；これからの医療機能分化 月刊経団連 平成24年 12月号 32-33 2012.12
- 7) 武久洋三：総特集 慢性期医療での ICT の有用性を探る 慢性期医療になくてはならない ICT の重要性と進展への期待—慢性期病院における「私と ICT」を主に 月刊新医療 2013年 2月号 No.458 (2) 24-26 2013.2

2. 学会発表

- 1) 武久洋三：2012年度医療・介護同時改定について、徳島介護フォーラム、徳島、2012.4.3
- 2) 武久洋三：慢性期医療における理念と実践、日本慢性期医療協会、東京、2012.4.14
- 3) 武久洋三：慢性期医療の立場からの改定対応のポイント、国際医療福祉大学院、東京、2012.4.15
- 4) 武久洋三：待ったなしの決断を、福岡県私設病院協会、福岡、2012.4.25
- 5) 武久洋三：よい慢性期病院を選ぼう、特定非営利活動法人平成医療福祉研究会、徳島、2012.5.22
- 6) 武久洋三：良質な慢性期医療がなければ日本の医療は成り立たない、日本慢性期医療協会、東京、2012.5.27

- 7) 武久洋三：多剤投与にもかかわらずコントロール不良状態から生活改善で薬物療法が必要なくなったDMの1症例,日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2012.6.9
- 8) 武久洋三 (シンポジウム)：医療機能再編と慢性期医療の未来, 日経ヘルスケア, 東京,2012.6.10
- 9) 武久洋三：日本における慢性期医療機関の競争力, アジア慢性期医療協会, 韓国・釜山,2012.6.14
- 10) 武久洋三：慢性期医療の現状と課題, 会津地方の慢性期医療を考える会, 福島,2012.6.17
- 11) 武久洋三 (シンポジウム)：在宅医療,救急など高齢者医療の課題に対する慢性期医療協会の提案,
日本老年医学会, 東京,2012.6.29
- 12) 武久洋三：診療報酬改定と波及効果の検討, 病院管理研究協会, 東京,2012.7.28
- 13) 武久洋三：病床の機能分化にどう対応すべきか, 東京都療養型病院研究会, 東京,2012.7.28
- 14) 武久洋三：今後の医療提供体制のあり方, 日本経済団体連合会, 東京,2012.7.30
- 15) 武久洋三：ロコモティブ症候群と医原性身体環境破壊からもたらされる病態はこうなおす～地域医療
の最前線～, 和歌山県立医科大学, 和歌山,2012.8.10
- 16) 武久洋三：'12 医療・介護同時改定と慢性期医療～2025 年に向かって 今、われわれがすべきこと～,
広島県慢性期医療協会, 広島,2012.8.18
- 17) 武久洋三：2025 年を迎える医療介護機能分化について, 神戸市医師会他, 兵庫,2012.8.23
- 18) 武久洋三：病院の機能別分化政策にどう戦うか, 大阪府病院協会・大阪府私立病院協会,
大阪,2012.8.29
- 19) 武久洋三：2025 年に向けての新しい地域連携を考える, 吉野川市医師会, 徳島,2012.8.30
- 20) 武久洋三：一体改革における病院の機能再編と慢性期医療について, 独立行政法人福祉医療機構,
東京,2012.9.14
- 21) 武久洋三：地域連携、長期急性期病院の機能について, 公立昭和病院, 東京,2012.9.26
- 22) 武久洋三：一体改革における病院の機能再編と慢性期医療について, 独立行政法人福祉医療機構,
大阪,2012.9.27
- 23) 武久洋三：慢性期医療における高齢者ケア, 医療経済研究機構, 東京,2012.9.28
- 24) 武久洋三：脳卒中疾患での病診連携／医療連携推進の取り組みと現状, 京都山城脳卒中

連携推進会議，京都,2012.9.29

25) 武久洋三：病床機能分化政策にどう対応するか，日本医業経営コンサルタント協会,徳島,2012.10.4

26) 武久洋三：慢性期医療 DPC 制度導入が 高齢化日本の医療をこう変える，医療経営研究センター・

コンタクス，東京,2012.10.26

27) 武久洋三：これからの医療体制改悪を生き抜く，浜松医師会，静岡,2012.11.6

28) 武久洋三（シンポジウム）：日本の慢性期医療の近未来，日本慢性期医療協会，福井,2012.11.8

29) 武久洋三：看護師の無限大の可能性を期待する，神奈川県看護部長会，神奈川,2012.11.15

30) 武久洋三：慢性期医療の今後について，日本医業経営コンサルタント協会神奈川県支部，神奈川,2012.12.15

31) 武久洋三：医療連携概論～医療がわかるケアマネジャーを目指して～，日本慢性期医療協会，東京,2013.1.26

32) 武久洋三：2025 年に向けた医療機能強化・病床再編の方向と今後取り組むべき病院経営への提言～見えてきた、新たな医療提供体制に向けた病床再編と成長発展する慢性期病院の新経営戦略～，保健・医療・福祉サービス研究会，東京,2013.1.27

33) 武久洋三：これからの慢性期医療機能を考える,東京都慢性期医療研究会，東京,2013.2.2

34) 武久洋三：慢性期医療の立場から地域連携を考える,日本医療マネジメント学会，東京,2013.2.9

35) 武久洋三：2025 年を見据えた療養病床の活用術～慢性期 DPC を含めて～,京都府保険医協会，

京都,2013.2.16

36) 武久洋三：日本の病院連携と機能の明確化,社会医療研究所，東京・大阪,2013.2.23,24

37) 武久洋三：慢性期病院が支える地域連携,日本医療マネジメント学会神奈川県支部，神奈川,2013.3.9

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他

日本慢性期医療協会 第1回在宅医療認定講座 プログラム

平成24年9月15日(土)

13:00~14:20	「これからの在宅医療政策」 講師：武久洋三 先生(博愛記念病院理事長、日本慢性期医療協会会長)
14:30~15:50	「在宅療養支援病院の実際」 講師：池端幸彦 先生(池端病院理事長、日本慢性期医療協会副会長・事務局長 慢性期医療を主軸とした地域連携推進事業部長)
16:00~17:20	「在宅医療を支えるための医師と訪問看護との連携」 講師：山崎摩耶 先生(衆議院議員、元日本看護協会常任理事)
17:30~18:50	「在宅医療における口腔管理」 講師：阪口英夫 先生(大生病院歯科口腔外科部長 日本老年歯科医学会地域保健医療福祉委員会委員)

平成24年9月16日(日)

9:00~10:20	「在宅療養支援診療所の医療の実際～泌尿器疾患の管理～」 講師：照沼秀也 先生(いばらき診療所理事長 日本慢性期医療協会理事・地域連携委員会副委員長)
10:30~11:50	「在宅療養支援診療所の医療の実際～皮膚疾患の管理～」 講師：田口佳代子 先生(いばらき診療所医師)
12:50~14:10	「在宅療養支援診療所の医療の実際～骨折の診断と治療～」 講師：丸山善治郎 先生(いばらき診療所みと院長)
14:20~15:40	「在宅医療における神経難病と認知症」 講師：美原 盤 先生(美原記念病院院長、日本慢性期医療協会常任理事 研修委員会委員長・難病対策委員会委員長)

平成24年10月27日(土)

13:00~14:20	「在宅医療と地域連携」 講師：井川誠一郎 先生(浜寺中央病院院長、地域連携委員会委員長)
14:30~15:50	「在宅医療における診療のポイント(ワークショップ)」 講師：井川誠一郎 先生(浜寺中央病院院長、地域連携委員会委員長)
16:00~17:20	「在宅医療における総合機能評価と疾病管理」 講師：矢野 諭 先生(南小樽病院院長、診療の質委員会委員長)
17:30~18:50	「在宅医療推進の必要性和方向性～連携について～」

	講師：鳥羽研二 先生(国立長寿医療研究センター病院長)
--	-----------------------------

平成24年10月28日(日)

9:00～10:20	「脳卒中疾患パスのリハビリテーション」 講師：酒向正春 先生(世田谷記念病院回復期リハビリテーションセンター長)
10:30～11:50	「在宅医療を支える地域医療システムの構築～療養病床への期待～」 講師：辻 哲夫 先生(高齢社会総合研究機構特任教授)
12:50～14:10	「在宅医療における訪問リハビリテーションの実際」 講師：木戸保秀 先生(松山リハビリテーション病院院長 チーム医療推進委員会委員長)
14:20～15:40	「日本の医療提供体制の今後の方向性」 講師：小山秀夫 先生(兵庫県立大学大学院経営研究科教授)

平成24年11月17日(土)

13:00～14:20	「在宅医療における薬物療法」 講師：秋下雅弘 先生(東京大学大学院医学系研究科加齢医学准教授)
14:30～15:50	「地域包括ケアシステムを支える慢性期医療の役割」 講師：田中滋 先生(慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授)
16:00～17:20	「在宅療養支援診療所の医療の実際～発熱の管理～」 講師：長尾和宏 先生(長尾クリニック院長、日本ホスピス在宅ケア研究会理事)
17:30～18:50	「在宅療養支援診療所の医療の実際～経管を含む栄養の管理～」 講師：長尾和宏 先生(長尾クリニック院長、日本ホスピス在宅ケア研究会理事)

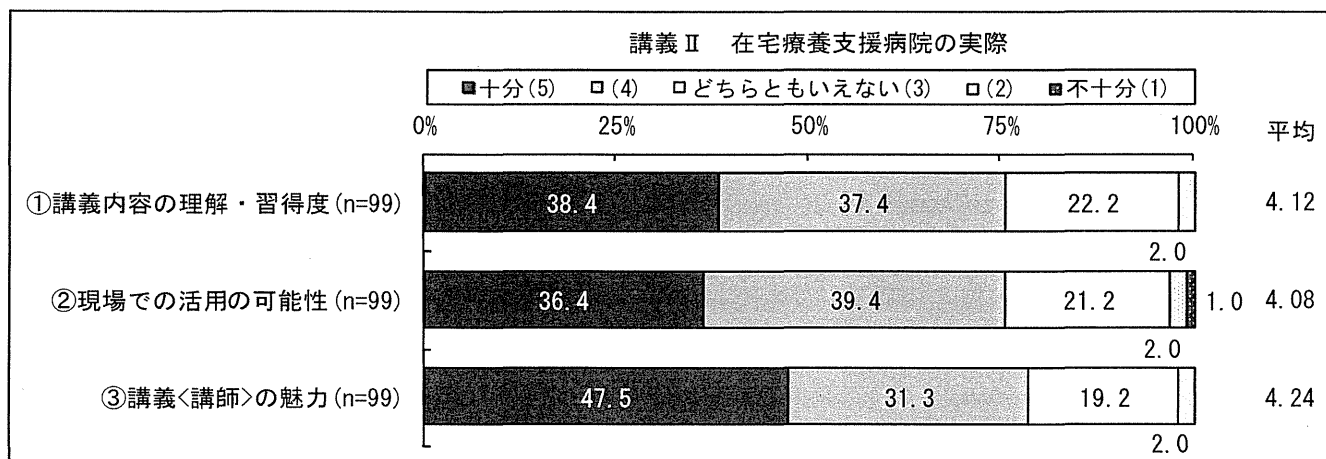
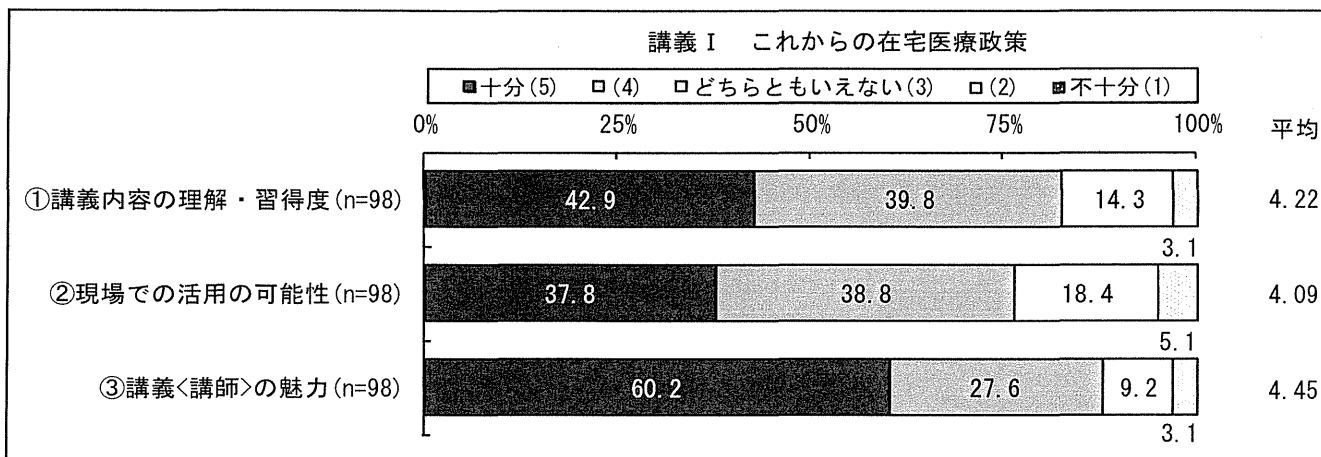
平成24年11月18日(日)

9:00～10:20	「在宅療養支援診療所の医療の実際～麻薬の管理～」 講師：長尾和宏 先生(長尾クリニック院長、日本ホスピス在宅ケア研究会理事)
10:30～11:50	「在宅療養支援診療所の医療の実際～終末期医療～」 講師：長尾和宏 先生(長尾クリニック院長、日本ホスピス在宅ケア研究会理事)
12:50～14:10	「今後の在宅医療の方向性」 講師：新田國夫 先生(全国在宅療養支援診療所連絡会会長、北多摩医師会会長)
14:20～15:40	「望ましい医療・介護体制と在宅政策」 講師：大島伸一 先生(国立長寿医療研究センター総長)
15:50～16:50	特別講演 講師：唐澤剛 先生(厚生労働省政策統括官)

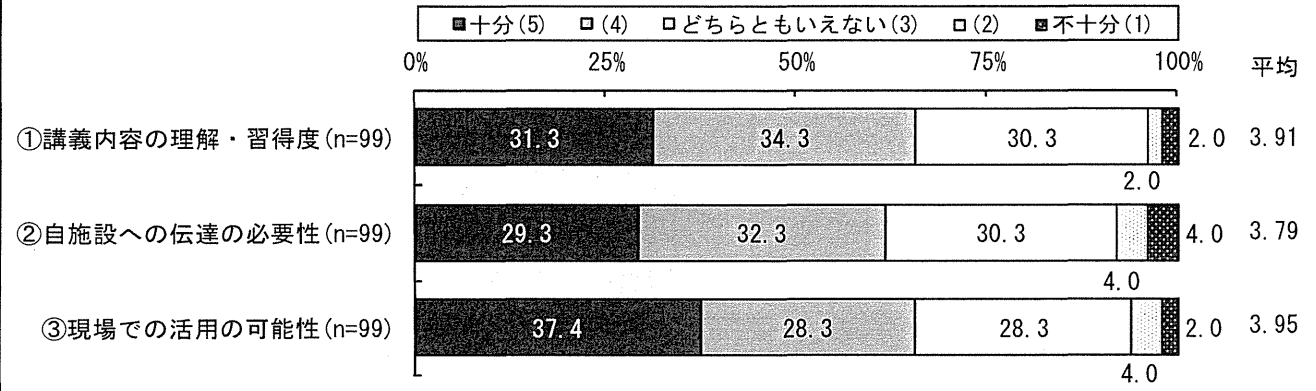
第1回在宅医療認定医講座 アンケート結果

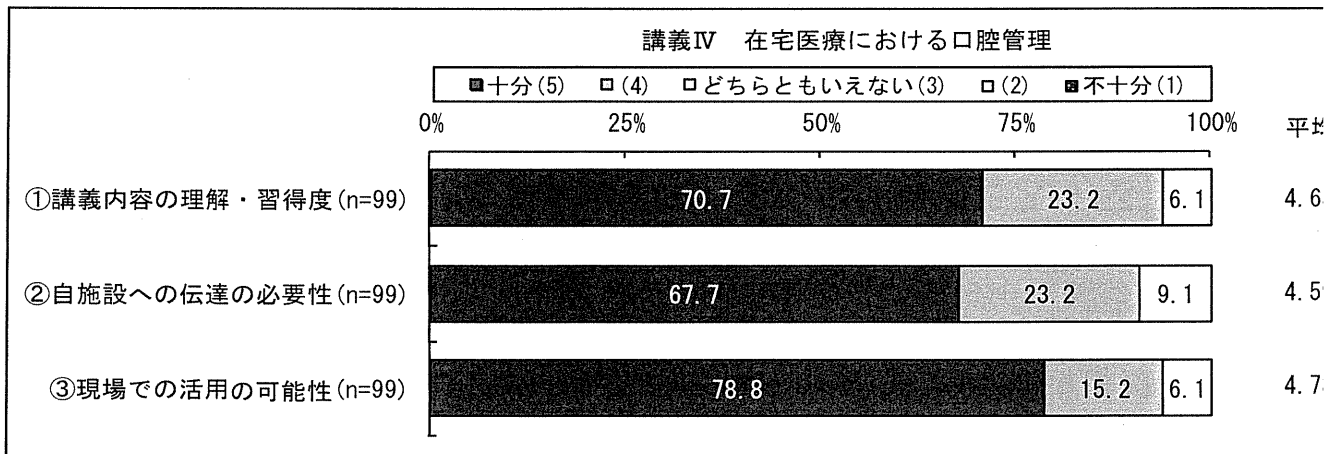
参加者数：医師134名

平成24年9月15日(土)

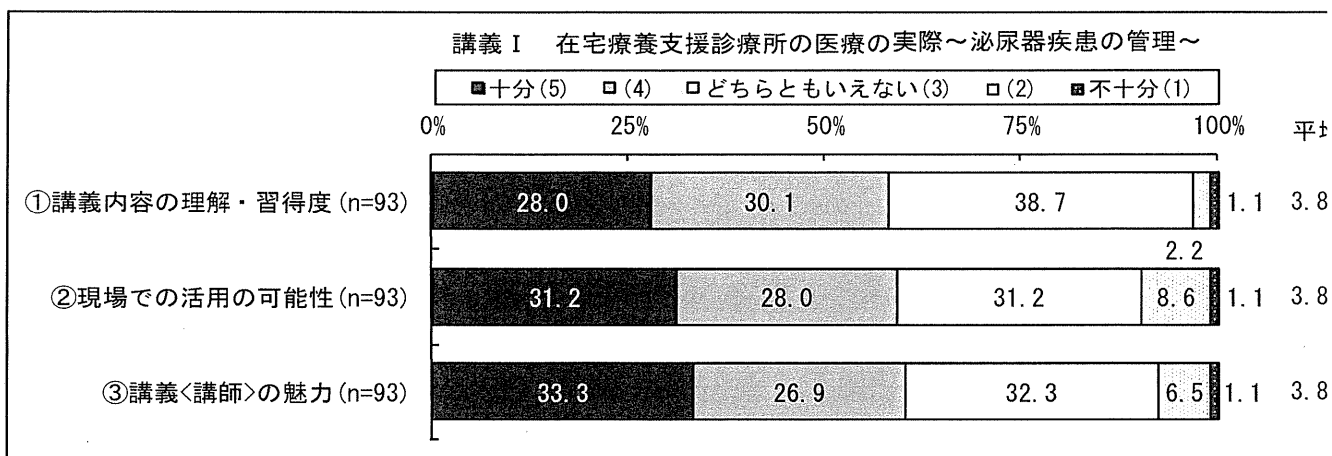


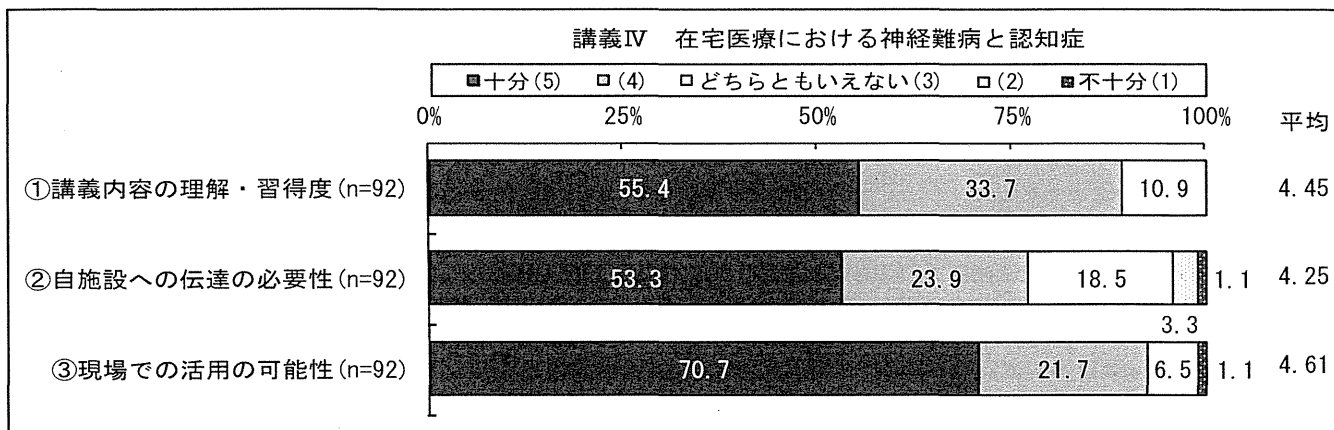
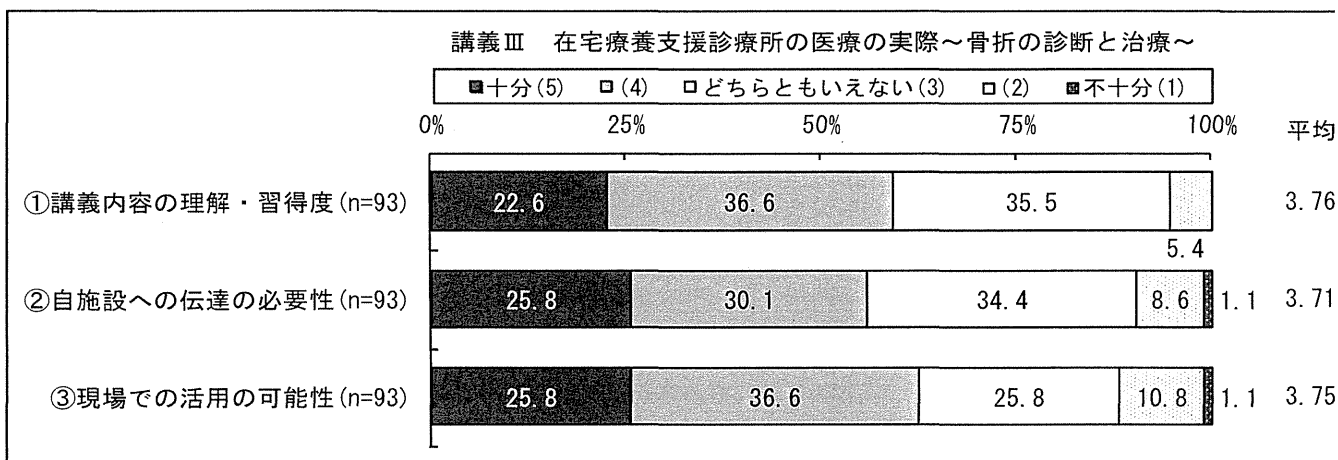
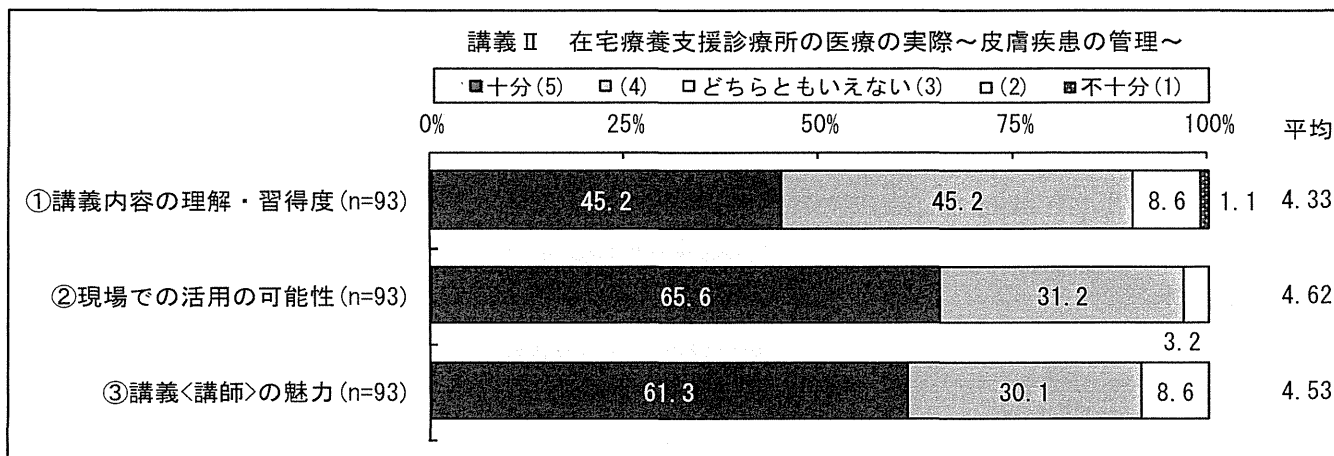
講義Ⅲ 在宅医療を支えるための医師と訪問看護との連携





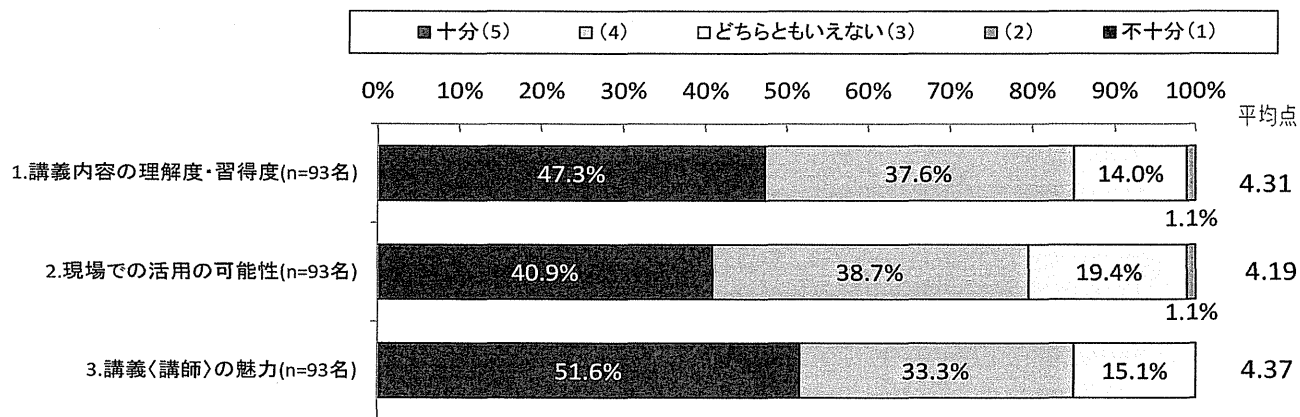
平成24年9月16日(日)



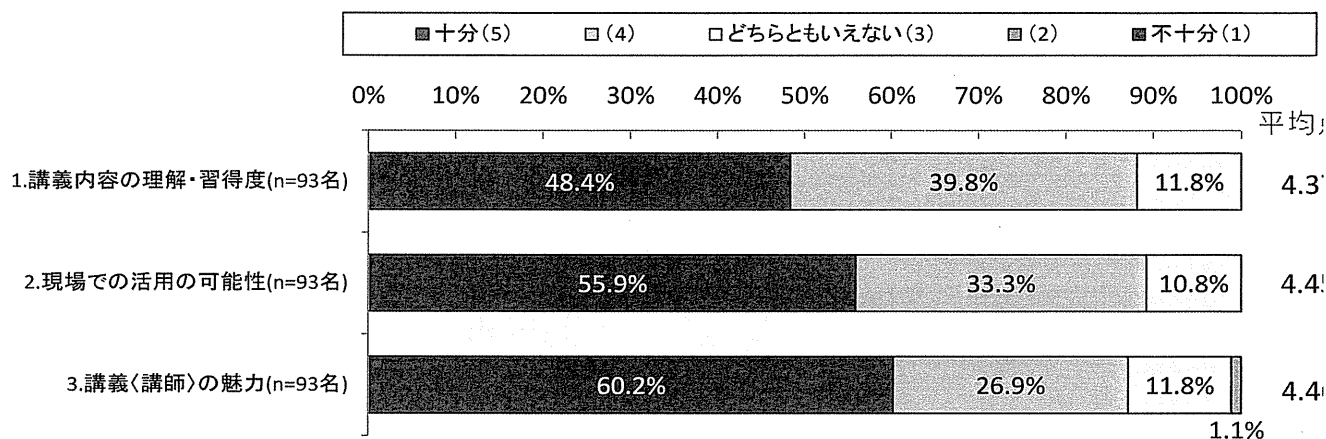


平成24年10月27日(土)

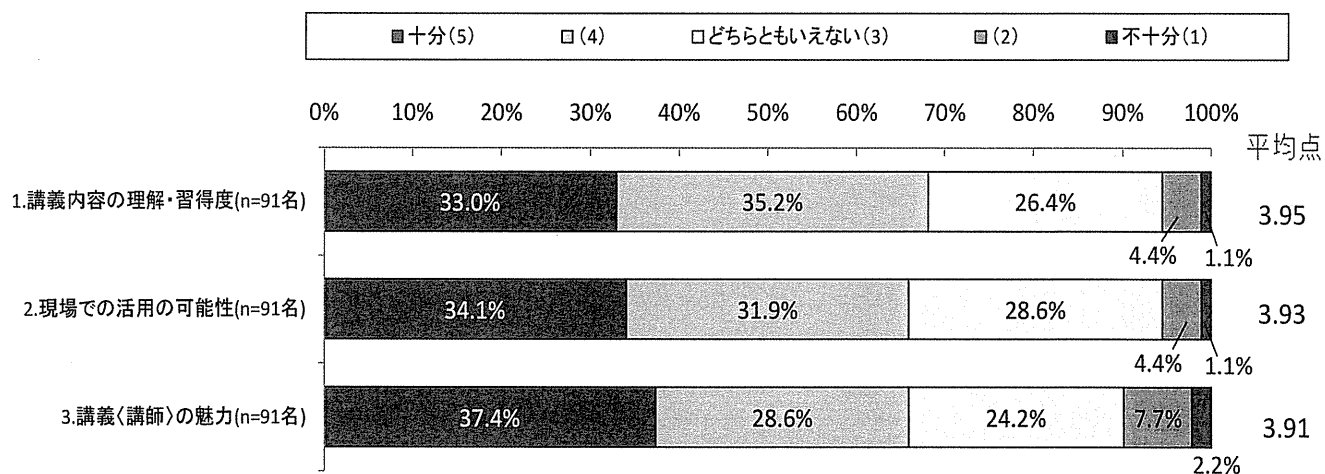
講義 I 在宅医療と地域連携



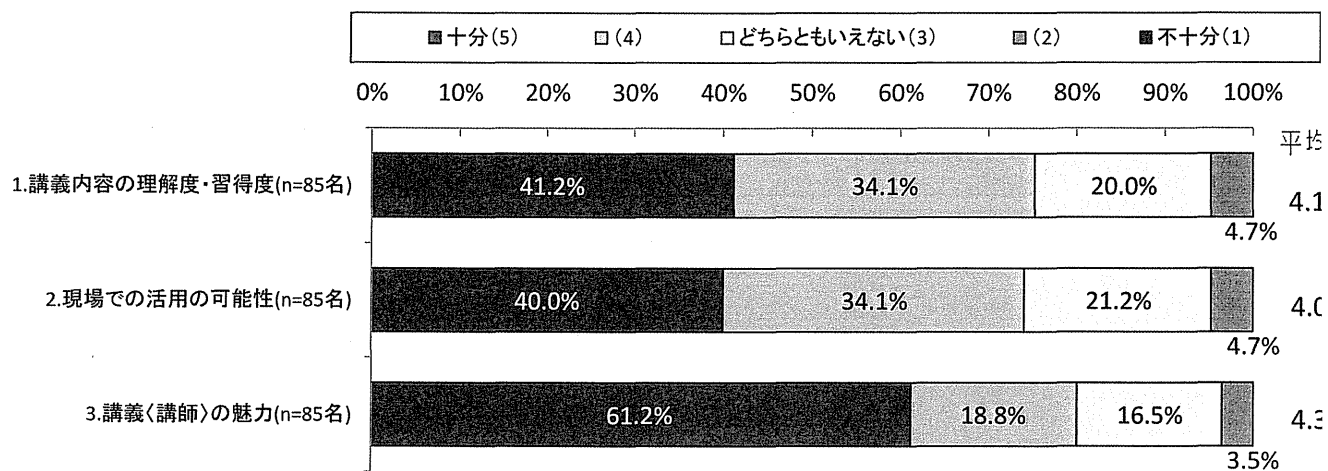
講義Ⅱ 在宅医療における診療のポイント（ワークショップ）



講義Ⅲ 在宅医療における総合機能評価と疾病管理

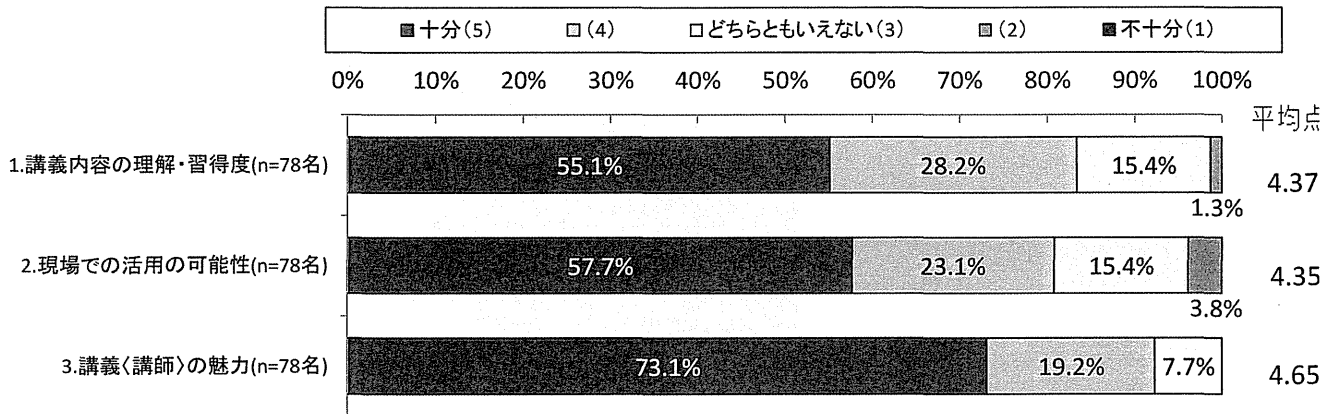


講義Ⅳ 在宅医療推進の必要性と方向性～連携について～

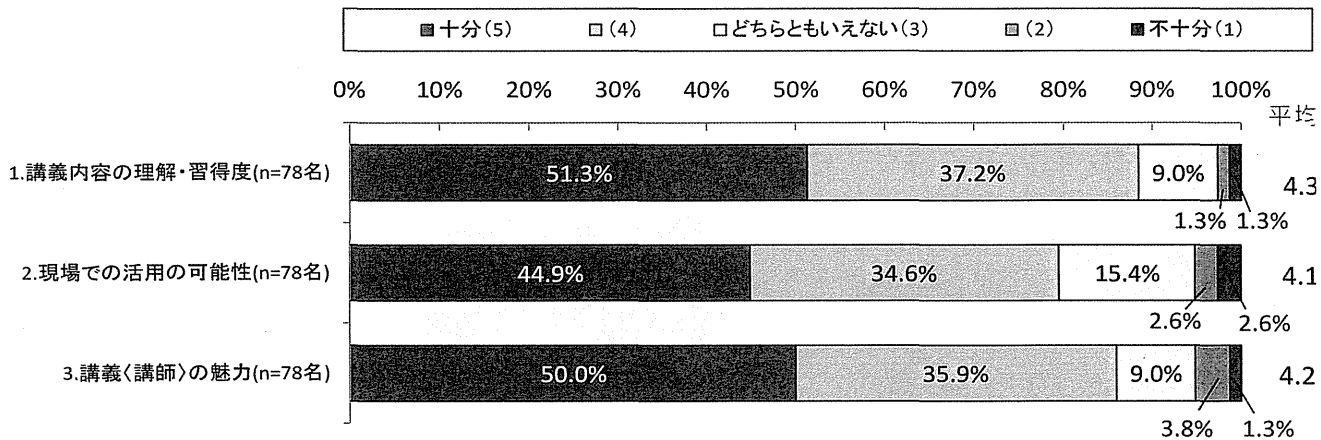


平成24年10月28日(日)

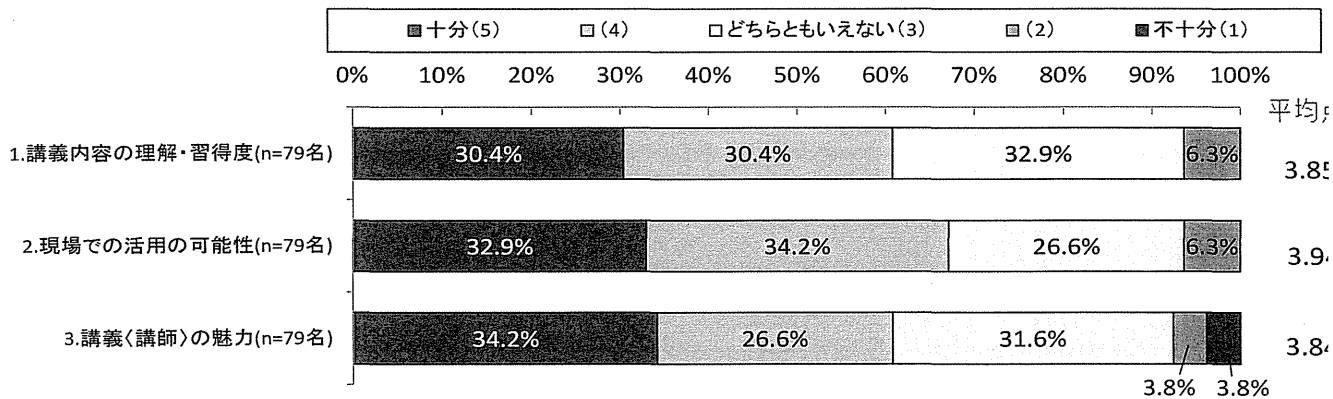
講義Ⅰ 脳卒中疾患パスのリハビリテーション



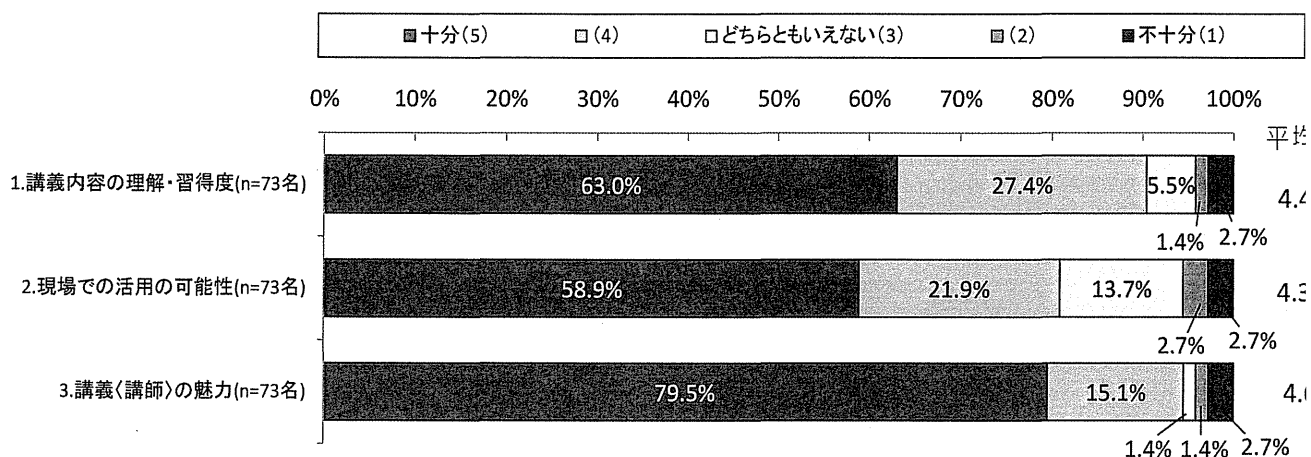
講義Ⅱ 在宅医療を支える地域医療システムの構築



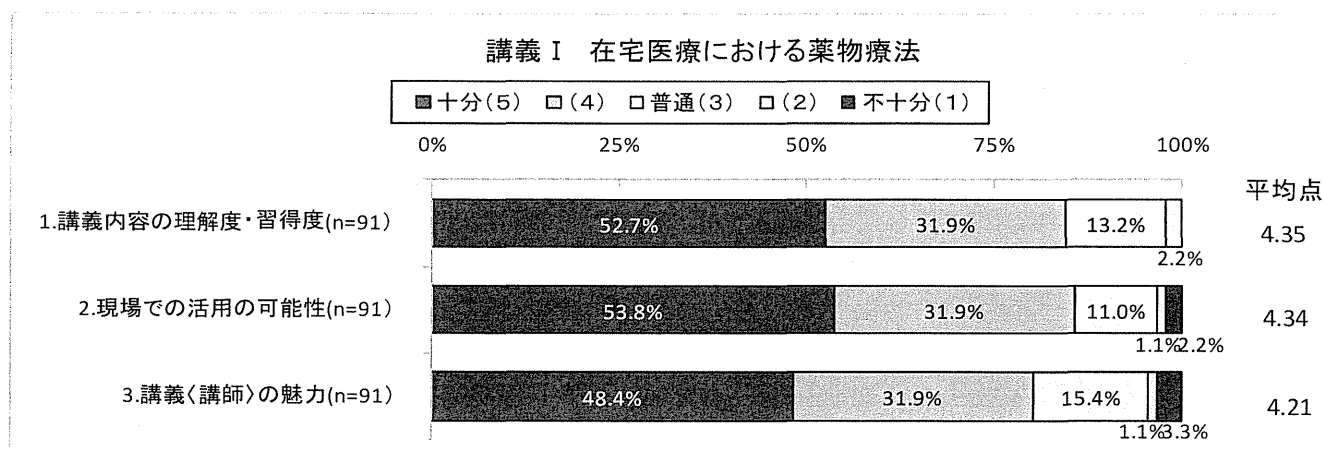
講義Ⅲ 在宅医療における訪問リハビリテーションの実際



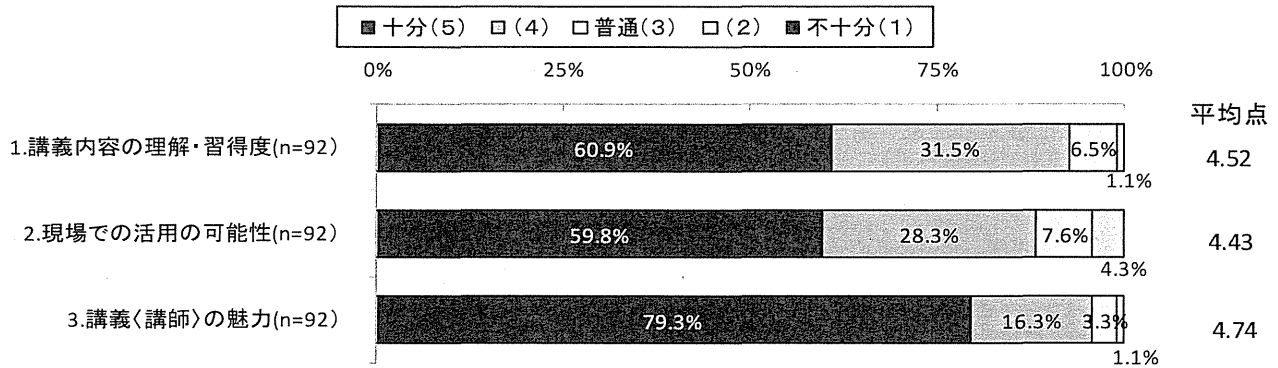
講義Ⅳ 日本の医療体制提供の今後の方向性



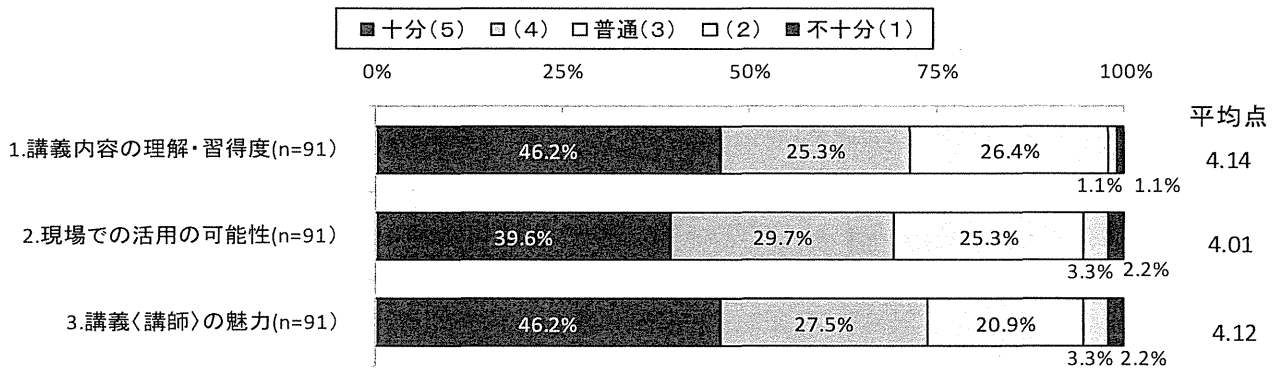
平成24年11月17日(土)



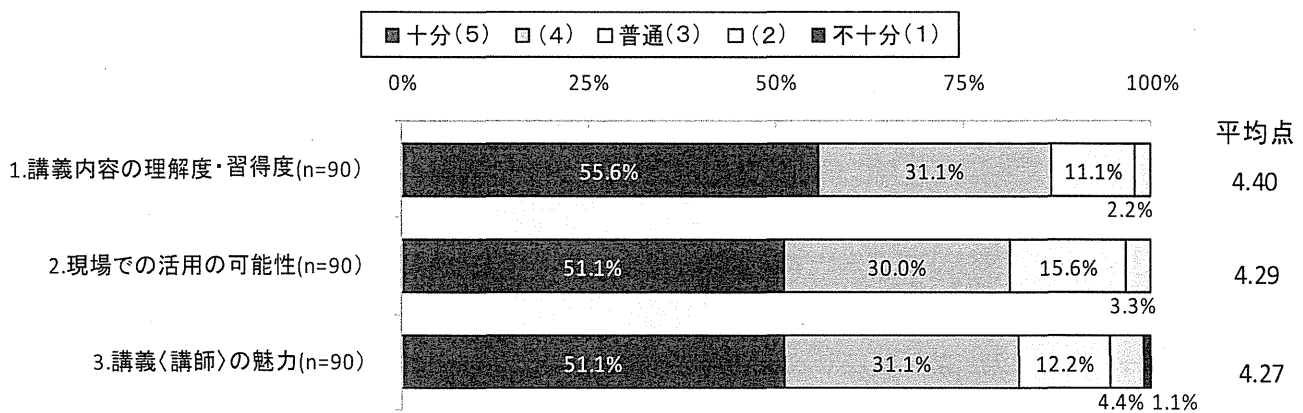
講義Ⅱ 地域包括ケアシステムを支える慢性期医療の役割



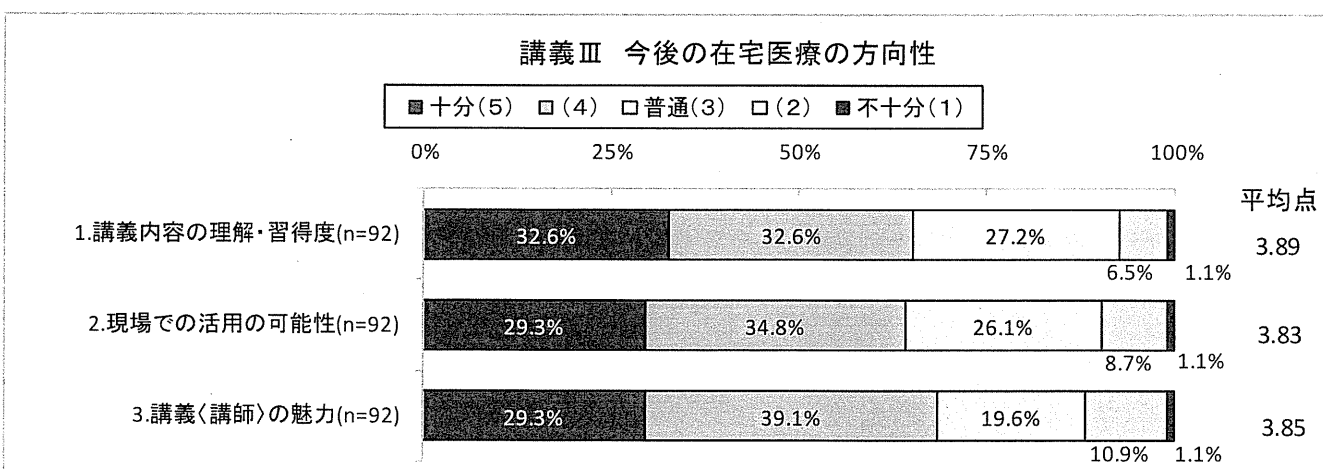
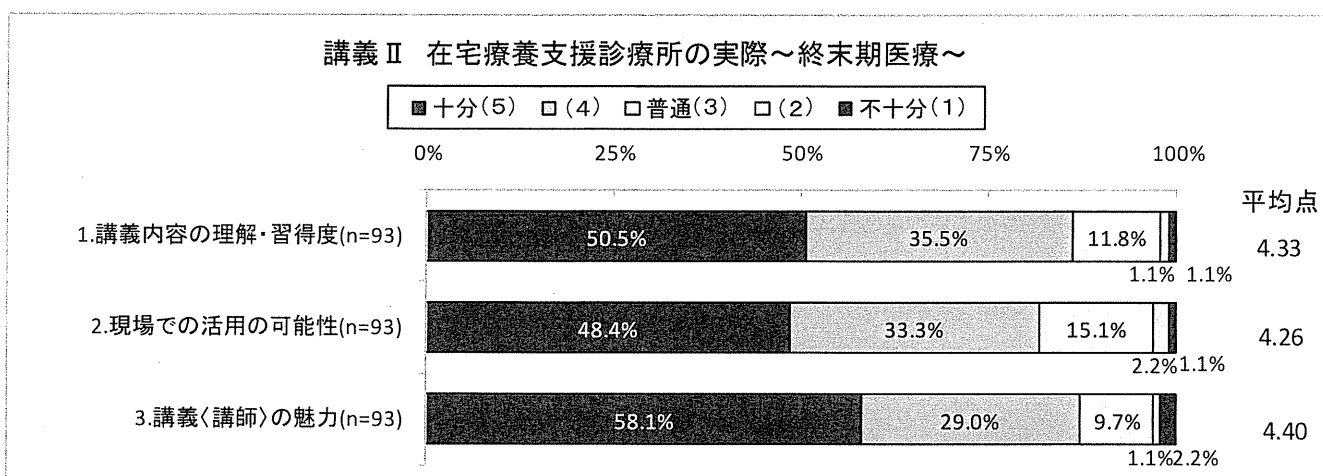
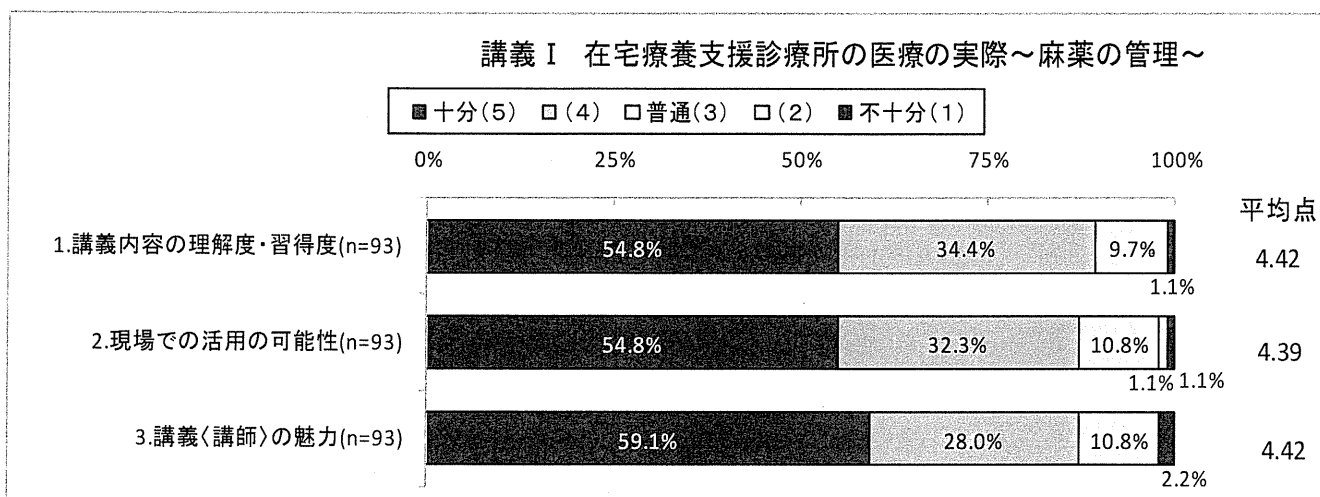
講義Ⅲ 在宅療養支援診療所の実際～発熱の管理～



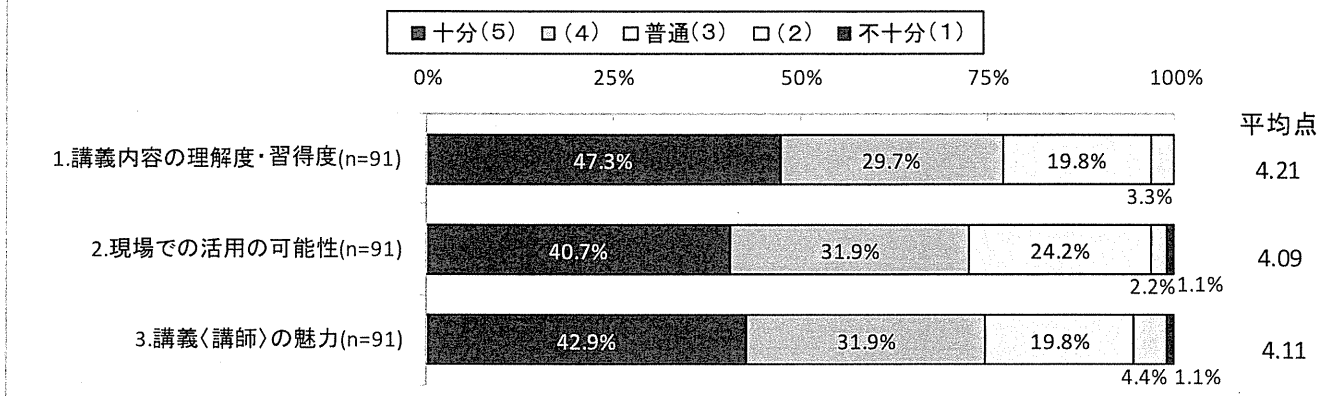
講義Ⅳ 在宅療養支援診療所の実際～経管を含む栄養の管理～



平成24年11月18日(日)



講義Ⅳ 望ましい医療・介護体制と在宅政策



全講義の平均ポイント

